



こころ、ひとつに 咲き誇れ、希望の花

子供たちの笑い声が響く校舎。一生懸命に運動会の練習をした校庭。大勢の観客を前に学習発表会の舞台となった体育館。

閉校は、地域にとって本当に寂しいこと。決断までにはさまざまな葛藤もあったでしょう。

いつの時代も、学校は地域と共有でありました。子供たちの学びやであるだけでなく、地域コミュニティの拠点として大きな役割を果たしてきました。

近年、急速に進む少子化により、学校規模の適正化は重要な課題です。子供たちに、より良い教育の場を提供するため、保護者や地域の皆さんと話し合い、統合という道を選択しました。

閉校に向け、子供たちは長い歴史を誇る学校の集大成を飾ろうと、全力疾走してきました。

子供たちだけでなく、地域の大人たちの心にも、「この学校で過ごした誇りを忘れない」と、古里を愛する心が芽生えたに違いありません。

それぞれの校舎は、いったんその役割を終えます。静かに地域を見守ってくれることでしょう。

(終)

達古袋保育園

たくさんの思い出をありがとう さようなら、大好きな保育園

達古袋保育園は「達古袋」の名が付く最後の施設。
たくさんの思い出が詰まった同園は、52年の歴史に幕を下ろしました。



1_閉園式に合わせて行われた卒園式で、園児5人が小野寺園長から保育証書を受け取った／2_小野寺園長から勝部修市長に保育園の看板を返納し、その歴史に幕を下ろした／3_同園の歴史を振り返る資料を展示／4_たくさんの思い出に別れの言葉を告げる園児ら

達古袋保育園(小野寺園長、園児8人)の閉園式は3月22日に行われ、園児、保護者、教職員、住民、関係者など、約40人が出席しました。

勝部修市長は「保育のニーズが多様化する中で、地域と共に歩んできた同園。今後は、厳美幼稚園などで、協調性を育み、伸び伸びと成長してほしい」と式辞。小野寺園長は「こは『達古袋』の名が付く最後の施設です。地域の教育への熱意は強く、たくさんの人たちに支えられました」と感謝しました。

園児たちは「たくさんの思い出が詰まった達古袋保育園。最後まであたたかく見守ってくれてありがとう。保育園が大好きです」と声をそろえ、「さよなら僕たちの保育園」と「じ」の2曲を元氣いっぱいに歌いました。

達古袋保育園は昭和37年に創立され、現在まで467人の園児を送り出して来ました。閉園後の施設は、緑のふるさと協力隊の活動拠点になり、新たな地区民の心のよりどころとして命が吹き込まれます。



小野寺修
おのでら・おさむ
園長

子供たちの歌を聞き、思い出を振り返りました。ここで園児たちと過ごせて、本当によかったですと実感しています。園児には、学んだことや思い出を忘れず、心豊かな大人になってほしいです。



小岩凜
こいわ・りん
25年度卒園児

運動会をしたり、肝試しをしたりしました。今日の卒園式と閉園式が一番の思い出です。歌やかけ声をいっぱい練習しました。厳美小学校に行ったら、友達をいっぱい作りたいです。



佐藤剛之
さとう・たけゆき
保護者会会長

正直、閉園は寂しいです。ここで学んだことや楽しかった思い出を忘れずにいてほしいです。子供たちには、自分の好きなことを見つけ、歩んでいてほしい。地域と共に応援していきます。